

# はにわ通信

No.313 令和3(2021)年4月号

粥見井尻遺跡公園に  
ぜひ、行って見てね!!



文化財センターでは、4月17日(土)から6月13日(日)にかけて学習支援展示「知りたい!大昔のくらし(縄文・弥生・古墳時代)」を開催します。大昔の人々のくらしをわかりやすく紹介をしています。展示室に入ると、大きな竪穴住居が目をはくかと思えます。これは、粥見井尻遺跡(飯南町 粥見小学校区)の竪穴住居に似せて造ったものです。今月号では、この粥見井尻遺跡から見つかった土偶と竪穴住居を紹介します。

## 【日本で一番古い土偶】



粥見井尻遺跡の土偶  
(三重県埋蔵文化財センター所蔵)

見つかった2点の土偶のうち1点は、粘土で膨らみのある胴体を作り、頭や乳房を貼り付け、女性の上半身をかたどっていました。もう1点は、頭の部分だけが出土しています。2点とも縄文時代初め頃(約12,000年前)の土偶とわかりました。この時期の土偶は国内でも少なく「日本最古の土偶」と考えられており、県指定有形文化財に指定されています。

## 【日本で最古級の竪穴住居】

縄文時代初め頃の竪穴住居が4棟見つかりました。直径4~6mほどの円形で、地面が60cmほど掘られていました。これは、床面となる穴で、その中央が窪んでいるのは、少しでも室内の空間を広くして住みやすくしようとした当時の人たちの工夫でしょうか。

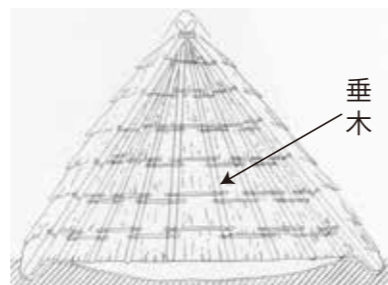
家の外周には直径10cmほどの小穴が連続してありました。これは屋根を支えるための木(垂木)を埋める穴です。当時は、太い柱を使わずに垂木に屋根をかぶせるだけの簡単な家を造っていたと思われます。

日本では縄文時代初め頃に同じ場所に住み続ける定住生活が始まったといわれています。粥見井尻遺跡はこの頃の様子を伝える貴重な遺跡として県指定史跡に指定されています。



高架下の粥見井尻遺跡公園

現在、粥見井尻遺跡は高架道路の下に保存され、史跡公園として公開されています。今回の展示に併せて訪れてみてはいかがでしょうか。(担当)



粥見井尻遺跡竪穴住居(復元図)

## 【4月 卯月】

花吹雪の中、光あふれる4月がやってきて、新しい生活がスタートしました。

今年の桜の開花は早く、楽しむ時間が少なかったかもしれませんが、桜は昔から多くの人に愛され、お花見は欠かせない春の行事です。松阪の偉人 本居宣長も桜をこよなく愛した人です。61歳の自画像とともに、「敷島の大和心を人問わば朝日ににほふ山桜花」と歌を書いています。



※「日本人である私の心とは、朝日に照り輝く山桜の美しさを知る、その麗しさに感動する、そのような心です。」 本居宣長記念館H. Pより

皆さんは、桜にどんな思い出があるでしょうか。

新年度の文化財センターは、はにわ館で学習支援展示「知りたい!大昔のくらし(縄文・弥生・古墳時代)」を開催します。歴史学習の始まる子どもたちや地域の遺跡や古墳に興味のある方、是非、はにわ館を訪れ、大昔のくらしを知る機会にしてください。また、ギャラリーでは、市民の皆様のすばらしい作品展が開催されます。

昨年度は、コロナ禍で学校や一般の方の団体見学等が減り、はにわ館の入館者数は激減しました。しかし、6月以降は企画展ごとに興味をもっていただいた個人の方が市内だけでなく、市外・県外の方も多くご来館いただき感謝しております。

今年度、文化財センターは、4月からの収蔵庫の新築や12月からの館内改修工事で、利用者の皆様にはご不便をおかけしますが、臨時閉館するまでの期間は、内容を充実して、企画展を開催していきたいと思えます。感染拡大防止対策を徹底して、運営いたしますので、文化財センターにお出かけください。(所長)

## 文化財センター はにわ館 & ギャラリーの催し物予定

4月の休館日は、5日(月)、12日(月)、19日(月)、26日(月)  
開館時間は9:00~17:00です。

【はにわ館】入館料 110円 (18歳以下無料) \*入館は16:30まで

第1展示室 ■常設展「宝塚古墳の謎」  
第2展示室 ■学習支援展示「知りたい!大昔のくらし(縄文・弥生・古墳時代)」4/17(土)~6/13(日)  
★4/17(土)は、県民の日を記念して『入館無料』

【ギャラリー】入場無料

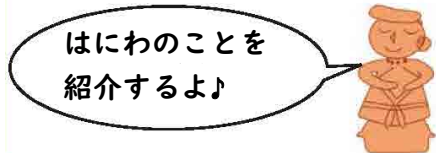
第2G	■森川久写真展仁王(杏)	4/2(金)~4/4(日)	9:00~17:00	※最終日は16:00まで
第1・2・3G	■第18回合同水墨画展	4/13(火)~4/18(日)	9:00~17:00	※最終日は15:00まで
第1G	■小さな絵展	4/21(水)~4/25(日)	9:00~17:00	※最終日は16:00まで
第3G	■アトリエらびす絵画教室展	4/21(水)~4/25(日)	9:00~17:00	※最終日は16:00まで

【イベント】

文化財センター ★ワークショップ「組みひもづくり」 4/17(土) 10:00~14:00 参加費100円/個 ※要予約  
文化財センター ★ポイントラリー 4/17(土)、18(日) 9:00~16:00



文化財センター情報は  
こちら



【埴輪の種類】

埴輪にはどんな種類があるのか皆さんは知っていますか？本来は少し難しい分け方をしますが、分かりやすく分けると、埴輪の種類は次の5つに分けることができます。

- ① 筒や壺の形をしたもの
- ② かぶとやたてなど道具の形をしたもの
- ③ 家の形をしたもの
- ④ 馬や鹿など動物の形をしたもの
- ⑤ 人の形をしたもの

（形象埴輪という）



さて、船形埴輪はどの種類？

5種類の埴輪の中で最も古くからあるのは①の筒や壺の形をした埴輪です。

では「船形埴輪」は①～⑤のどの種類かわかりますか？

正解は②になります。一般的に埴輪のイメージは④の動物埴輪や⑤の人物埴輪を連想することが多いですが、はにわ館には③の家形埴輪や②の道具の形の埴輪が展示されています。その中でも船形埴輪は他の埴輪とは違い、豪華な装飾がほどこされていて、全長140cm、高さ94cm 最大の幅は36cmと、国内で見つかった船形埴輪の中でも最大級の大きさです。そのため、全国的にも貴重な文化財としてはにわ館の中央に展示されています。松阪市から出土した貴重な埴輪なのでぜひ見に来てくださいね。（担当）

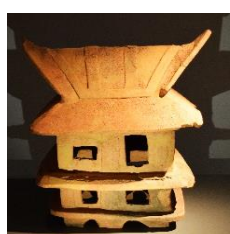
（埴輪の種類の写真やイラスト）



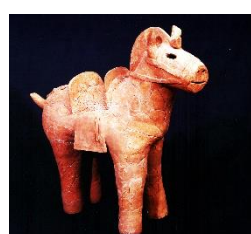
①筒の埴輪  
（円筒埴輪）



②道具の埴輪  
（盾形埴輪）



③家の埴輪  
（家形埴輪）



④動物の埴輪  
（馬形埴輪）



⑤人の埴輪  
（巫女の埴輪）

【5月 皐月】

5月5日は「こどもの日」。鯉のぼりや武者人形、武将の鎧兜などを飾って、子どもの無病息災と成長を願って行われている行事です。文化財センターの横の阪内川には、今年も殿町中学校「鯉吹かし」の色とりどりの鯉が川面を泳いでいます。



松阪にゆかりのある武将といえば、蒲生氏郷。松坂城を築き、城主として松坂の町をつくった武将です。氏郷の兜は、とても変わった形をしています。知っていますか？11月に行われる氏郷まつりの武者行列で見たことがあるかもしれません。ナマズの顔が付いた鯰尾形兜と呼ばれるものです。今年は、氏郷の築いた松坂城跡が国史跡に指定され、ちょうど10年となります。緑の風の中、松坂城跡を散歩してみたいかがでしょう。

5月のはにわ館は、学習支援展示「知りたい！大昔の暮らし」を開催中です。第一展示室と合わせて古代の松阪の歴史をお楽しみください。

また、ギャラリーでは、絵画や写真などの展覧会が予定されています。

遠くに出かけられない今だからこそ、感染予防対策をして、文化財センターにお越しください。（所長）

文化財センター はにわ館&ギャラリー催し物予定

5月の休館日は 6日(木) 10日(月) 17日(月) 24日(月) 31日(月)

開館時間は 9:00～17:00 です

【はにわ館】 入館料 110円（18歳以下無料）入館は 16:30 まで

第一展示室 ■常設展 「宝塚古墳の謎」

第二展示室 ■学習支援展示 「知りたい！大昔の暮らし（縄文・弥生・古墳時代）」4/17(土)～6/13(日)

【ギャラリー】 入場無料

第1ギャラリー ■松阪公民館グループ カンバス展

5/11(火)～5/16(日) 9時～17時 ※ 初日は13時半から、最終日は16時まで

第3ギャラリー ■「温故知新」擬革紙発表会 5/14(金)～5/16(日) 9時～17時 ※ 最終日は15時まで

第2ギャラリー ■あざか絵画クラブ展 5/18(火)～5/23(日) 9時～17時 ※ 初日は正午から、最終日は16時まで

第1ギャラリー ■NTT OB趣味の作品展 5/21(金)～5/23(日) 9時～17時 ※ 最終日は15時まで

第3ギャラリー ■フォトクラブ遊遊「第27回写真展」

5/25(火)～5/30(日) 9時～17時 ※ 初日は13時から、最終日は16時まで

【イベント】

★ワークショップ 勾玉づくり ※予約された方のみ参加できます。

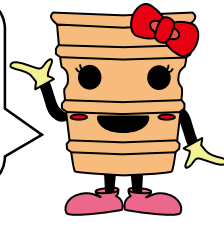
5/3(月・祝)～5/5(水・祝) 10時～12時・13時～15時 参加費 200円/個

★ポイントラリー 5/3(月・祝)～5/5(水・祝) 9時～16時



文化財センター情報は  
こちら

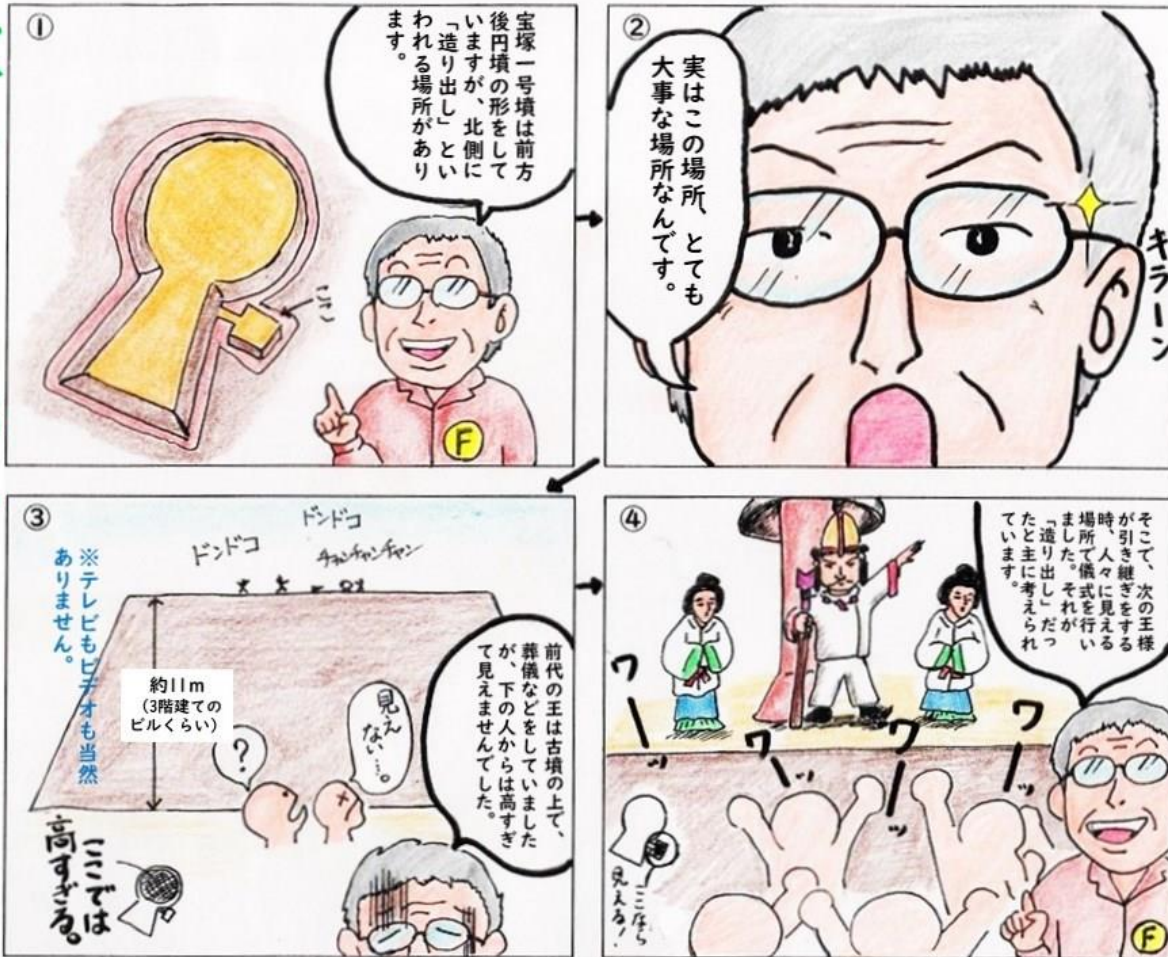
今月は宝塚古墳  
のことについて  
のお話です。



## 【宝塚1号墳の形】

船形埴輪が出土した宝塚1号墳。宝塚1号墳の形は「前方後円墳」といいます。上から見ると鍵穴のような形をしています。しかし、宝塚1号墳には「造り出し」と呼ばれるものが造られています。なぜ出来たのでしょうか？古墳に詳しいF先生に聞いてみました。

教えて！F先生



伊勢の国を治める王が地域の人々に向かって重要な儀式を行い、自分の存在をアピールする”まつりの場”として「みんなにも見える」場を求め、造られたのがこの「造り出し」でした。

それは単なる王の権力の誇示ではなく、時の政権が国全体をまとめていく中で、伊勢の王が地域の人々の心を掴み、団結させたいという意識の表れだったのかもしれませんが、悠久の時を経て、宝塚1号墳の造り出しは訪れた人だれもが目にする場所になっています。ちょっとした遊び場所のように感じるかもしれませんが、1,600年前の古墳時代に思いを馳せ、その場所で昔あった「まつり」を想像し、当時の伊勢の王の思いを感じたり、古墳を造った人々の思いに心を寄せてみませんか？

## 現在の造り出しの様子



宝塚1号墳は宝塚古墳公園から見上げる所にあります。機会があったら、みなさんも「造り出し」をご覧ください。自分の目で見て確かめてみる。そんな体験ができるのが宝塚古墳公園であり、その当時の息吹や景色を思い浮かべることができたなら、きっとタイムトラベルをしたような気持ちになれますよ。

(担当)

## 【所長コラム】

6月 水無月

水無月とは、水の無い月ではなく、田植えが終わった田一面に水をはる月(田水之月)のことだともいわれています。

日本では、弥生時代(今から約2,300年前)に水田稲作が大陸から伝わり、狩猟採集生活から、農耕生活に移っていきました。ムラをつくり、みんなで協力して稲作を行い、食料を貯えることができるようになり、生活が変わりました。そのような生活の移り変わりを「知りたい!大昔の暮らし(縄文・弥生・古墳時代)」で紹介しています。松阪の遺跡や古墳からの出土品とともに、当時の生活の様子を知る機会にしてください。はにわ館で6月13日まで開催しています。



6月の市民ギャラリーは、絵画・書道・写真など6つのグループの作品展が予定されています。緑の美しい鈴の森公園を抜けて、あなたの好きな作品を見つけに文化財センターにお越しください。

## 文化財センター はにわ館&ギャラリー催し物予定

6月の休館日は7日(月)14日(月)21日(月)28日(月) 開館時間は9:00~17:00です

【はにわ館】 入館料110円(18歳以下無料) 入館は16:30まで

- 第一展示室 ■常設展 「宝塚古墳の謎」
- 第二展示室 ■学習支援展示 「知りたい!大昔の暮らし(縄文・弥生・古墳時代)」4/17(土)~6/13(日)

【ギャラリー】 入場無料

- 第2ギャラリー ■白日会の中南勢研究会展 6/1(火)~6/6(日)9時~17時※初日は13時から、最終日は16時まで
- 第1ギャラリー ■小波書院書作展 6/5(土)~6/6(日)10時~17時まで※最終日は16時まで
- 第1~3ギャラリー ■西黒部日本画教室展 6/9(水)~6/13(日)9時~17時 ※最終日は15時まで
- 第2ギャラリー ■第4回彩嬉会作品展 6/17(木)~6/20(日)9時~17時 ※最終日は16時まで
- 第1ギャラリー ■同窓3人展 6/25(金)~6/27(日)9時~17時 ※初日は13時から、最終日は15時まで
- 第1~3ギャラリー ■第9回松阪写真交流会フォトフェスティバル 6/29(火)~7/4(日)10時~17時 ※初日は13時から、最終日は16時まで

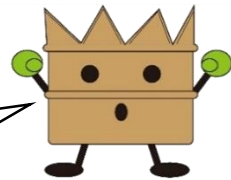
【発行】松阪市文化財センター【☎】0598-26-7330

【HP】<https://www.city.matsusaka.mie.jp/site/bunkazai-center/>

文化財センター情報はこちら



今月は「人物埴輪」についてのお話をします。



国宝「埴輪 挂甲武人」  
出典：ColBase  
<https://colbase.nich.go.jp>



巫女の埴輪  
(常光坊谷4号墳)

「埴輪 挂甲武人」のように装飾が残り、一目見て分かるような埴輪だけでなく、巫女の埴輪のちょっとした手の隙間に注目し、何を持っていたのかを知ろうとする。見えているものから学ぶこともあれば、『無い物を知ろうとする』ことによって学ぶ学び方もあります。はっきりとした正解はなかなか見つかりませんが、その分色々な資料を参考にして自分の答えを出してみるような、そんな歴史の学び方も楽しいですよ。皆さんは、そう思いませんか？歴史はまだまだ謎だらけです。

はにわ館では夏季企画展で「人」がいっぱい～考古資料にみる人の表現～を開催し、人の埴輪や土偶をたくさん展示します。7/24(土)にはA主任のミュージアムトークもありますよ！この夏は「はにわ館」へ行こう！  
(担当)

【巫女は何を持っていた？】

埴輪と聞いて真っ先にイメージするのは“人物埴輪”という人が多いと思います。人物埴輪の中で最も有名なのは国宝「埴輪 挂甲武人」です。NHKで放送されている教養番組「はに丸ジャーナル」に登場する「はに丸くん」や、映画「大魔神」の造形モデルにもなりました。

人物埴輪が登場し始めるのは宝塚古墳が完成した後の5世紀中頃とされていますので、はにわ館の常設展に人物埴輪は展示されていません。しかし、実は松阪にも素晴らしい人物埴輪が見つかっています。

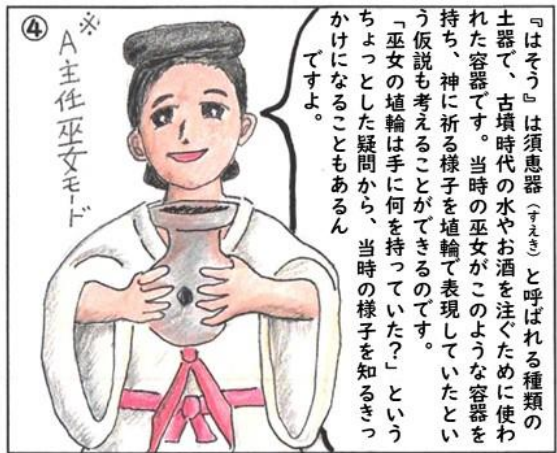
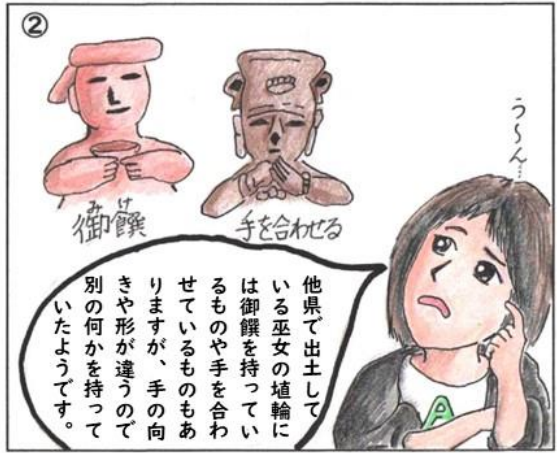
常光坊谷4号墳では男性の埴輪と女性の埴輪が見つかっていますが、その中で今回は「巫女の埴輪」を紹介します。

巫女とは「神に仕える」女性のことです。頭の上の板状の形は巫女の髪型を表しています。少し上向き加減で空を見上げ、両手には何かを持っているような様子が表されています。

天に祈りを捧げる表情は真剣な表情にも見えますし、どこか悲し気な表情にも見えますが、当時、科学の発達していない時代、神に祈ることで豊作を願い、災害が治まるよう祈り、人々の願いを神に届けようとしたのでしょう。このことは、とても神聖な行為であり、当時の人々が神に畏敬の念を抱いていたことを示す貴重な資料のひとつです。

では、巫女は神に祈る際に何を持っていたのでしょうか？人物埴輪の企画展を計画しているA主任に聞いてみましょう。

A主任に聞きました。巫女は何を持っていた？



7月 文月

7月7日の七夕は、中国から伝わった行事ですが、今は、織姫と彦星が、天の川を渡り一年に一度会うことのできる日という伝説や、願いを短冊に書き、笹飾りをする夏の風物詩として親しまれています。今年は、夜空に天の川は見えるでしょうか。



7月のギャラリーでは、昨年開催できなかった「松阪の偉人たち展」が7日から始まります。蒲生氏郷や本居宣長をはじめとした8人の松阪のゆかりの偉人が紹介されます。

また、保育園児・こども園児の作品展であるギャラリー企画展「まつさかのちっちゃなアーティストたち」を24日から開催します。今年は、15園が参加いただき、個性豊かな作品で会場を飾ります。園児たちの自由で伸びやかな作品を是非お楽しみください。

はにわ館での夏季企画展と合わせて、夏休みにご家族で文化財センターにお越しください。  
(所長)

**文化財センター はにわ館&ギャラリー催し物予定**

7月の休館日は5日(月) 12日(月) 19日(月) 26日(月) 開館時間は9:00~17:00です

【はにわ館】入館料110円(夏季企画展開催期間中200円) 18歳以下無料 ※入館は16:30まで

第一展示室 ■常設展 「宝塚古墳の謎」  
第二展示室 ■夏季企画展 「人」がいっぱい ~考古資料にみる人の表現~ 7/24(土)~8/29(日)

【ギャラリー】入場無料

第1~3ギャラリー ■第7回 偉人たち展 7/7(水)~7/11(日) 9時半~16時半 ※最終日は15時まで  
第1ギャラリー ■「トレッキング」近藤健治 竹林千秋 林隆久 写真展 7/13(火)~7/18(日) 9時~17時まで ※初日は13時から、最終日は15時まで

第2ギャラリー ■第3回 みえび展 7/14(水)~7/18(日) 10時~16時 ※最終日は15時まで  
第1~2ギャラリー ■まつさかのようちえんこどもえん園児造形展~まつさかのちっちゃなアーティストたち~ 7/24(土)~8/1(日) 9時半~16時半まで

【夏のイベント】

■ミュージアムトーク 7/24(土) 13時半~14時半  
■スタンプラリー 7/31(土)~8/1(日)

【発行】松阪市文化財センター 【☎】0598-26-7330  
【HP】<https://www.city.matsusaka.mie.jp/site/bunkazai-center/> 文化財センター情報はこちら

今月は昔の人々に大人気だった動物のお話だよ。




現在では文明が発達し、馬の出番は生活の中からはほとんど消えてしまいましたが、日本の歴史を大きく動かした「馬」の登場以降、人と馬は共に歴史を刻み、生活を豊かにしてきました。

昔の人たちは動物を大切に育て信頼し、その力をうまく引き出しながら様々な出来事や、時に困難を乗り越えながら共生してきました。文字通り人と馬は「ウマが合った」ということなのです。

そんな動物だったので、馬形埴輪には当時の馬への憧れや思いがたくさん込められているのでしょね。(担当)

**【歴史を動かした存在】**

動物埴輪の中でも人気のある埴輪といえば何か。埴輪になっている動物はたくさんいますが、その中でも圧倒的に人気があった動物は「馬」です。

松阪市では馬を間近に見る機会はありませんので、意外に思った方もいると思います。

では人と馬の関係はいつから始まったのか。今回は学芸員の資格を持つ文化財センターのM主任に登場していただきます。

## M主任、登場



① ビビーン

もともと馬は朝鮮半島から日本に持ち込まれました。時代中頃に馬の飼育が定着しました。

② 馬具

昔は輸送や農業、移動の手段などにも使われていましたが、そもそも馬は戦いの特別な力として日本に持ち込まれました。輪は一般的に馬形埴輪は装飾のあるものが多く、この時代に見られる馬形埴輪は装飾が少なく、馬の姿が写っています。

③ ヤッポ

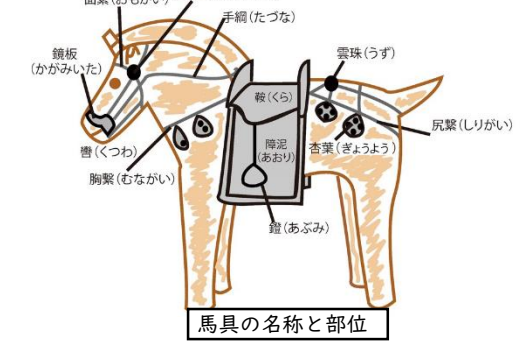
古墳時代の日本は自然が豊か、「草原の国」としての一面もありました。草原の草は馬にとって格好のエサであり、馬が育ちやすい環境が整っていたので、各地で馬の生産が盛んに行われていました。生活にとって貴重な存在になりました。

④ ビビーン

馬の埴輪には、亡くなった人の魂を運ぶ乗り物としての意味もあったと思います。文明が発達してはなくなった時代、人にとっても馬は、古墳時代に飼育が定着してから近代まで多岐にわたり活躍してきました。動物の埴輪の中で最も数が多いのも馬形埴輪なんです。

## 古墳時代に持ち込まれた馬

馬形埴輪には装飾が施された飾り馬が多く、松阪で見つかった馬形埴輪にも馬具が装飾されています。下の図にもありますが、馬具には様々な種類の装飾があり、古墳時代の王が馬にまたがっていた時の豪華な様子を連想することができます。



歴史の中で、馬の登場はあまり大きく取り扱われていませんが、馬が普及した日本はそれ以前の国とは全く別の国と思えるほど変わっていききました。

農耕では、人の何倍もの力で作物を運ぶことができ、人よりもはるかに速く、長い時間を走り、長距離を移動することができるので移動や伝達手段にもなりました。

まだ戦のあった時代では、馬を使った戦術が戦の勝敗を左右するほど、馬の力は大きかったと考えられます。

## 8月 葉月

暦の上では、立秋を迎えますが、まだまだ残暑厳しく、気温が高い日が続きます。この時期に行われる夏まつりは、成長した作物が台風や害虫によって損なわれないように願うことや、ご先祖様を供養するために行われるまつりが多いです。

昔からさまざまなまつりが行われてきましたが、はにわ館の夏季企画展では、まつりに関わる道具として作られたり描かれたりした「人」の考古資料を多く展示しています。

また、第一展示室では、今年も中学生による動画でのボランティアガイドを行います。お手持ちのスマートフォンやタブレット等で二次元コードを読み込んでいただき、中学生の案内をお楽しみください。

ギャラリーでは、絵画展や写真展、そして平和について考える展覧会が予定されています。文化財センターにお越しいただき、夏の日をお過ごしください。(所長)



### 文化財センター はにわ館&ギャラリー催し物予定

【はにわ館】入館料200円(夏季企画展開催中・18歳以下無料)  
開館時間は9:00~17:00です ※入館は16:30まで

第一展示室	■常設展 「宝塚古墳の謎」
第二展示室	■夏季企画展「人」がいっぱい ~考古資料にみる人の表現~ 7/24(土)~8/29(日)

【ギャラリー】入場無料


第1ギャラリー	■色々展2021 8/6(金)~8/8(日) 9時半~17時まで ※最終日は16時まで
第3ギャラリー	■広島市の「高校生が描いた原爆の絵」展 8/7(土)~8/8(日) 9時~17時 ※初日は11時から、最終日は16時まで
第1ギャラリー	■全日本写真連盟 88支部 第36回写真展 8/11(水)~8/15(日) 10時~17時 ※初日は13時から、最終日は16時まで
第1ギャラリー	■平和展-戦争中の現実とは- 8/20(金)~8/22(日) 9時~17時まで ※最終日は15時まで
第3ギャラリー	■ワークショップ 土偶・はにわストラップ作り ※要予約 参加費300円 8/21(土)10時~12時 13時~15時 8/22(日)10時~12時
第1ギャラリー	■第8回 嬉野フォトクラブ写真展 8/25(水)~8/29(日) 9時~17時まで ※最終日は16時まで
第3ギャラリー	■伊勢型紙彫型画展 8/31(水)~9/5(日) 9時~17時まで ※最終日は15時まで

【夏のイベント】

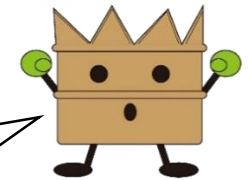
- ★スタンプラリー 7/31(土)~8/1(日)
- ★キッズミュージアムトーク ※予約不要 8/22(日) 13時半~14時半
- ★動画でガイド!中学生ボランティアガイド 動画公開期間 8/19(木)~9/23(木・祝)

**<8月の休館日は 2日(月) 10日(火) 16日(月) 23日(月) 30日(月)>**

【発行】松阪市文化財センター 【☎】0598-26-7330  
【HP】<https://www.city.matsusaka.mie.jp/site/bunkazai-center/> 文化財センター情報はこちら



太陽が昇る朝、それを呼ぶとされていた動物のお話だよ。



常光坊谷 4号墳で出土した雄鶏形埴輪

ただ、昔の人々は森羅万象全てに「神」の存在があると信じ、その中でも太陽が昇ることのありがたさや太陽を呼ぶとされていた鶏の存在を崇めるほど、陽光の射す世界は貴重で大切だったと考えられます。  
みなさんは毎日の始まりの朝に何を感じますか？過密な予定や忙しさに朝が来ることが億劫に感じたりすることもありませんか？そんな時、古墳時代の人々に倣い、朝を迎えることができる喜びを少しでも感じられたら、その日の始まりがちょっと前向きになれるかもしれません。（担当）

【太陽を呼ぶもの】

動物埴輪の中で最も早くから埴輪になった生き物は何でしょうか。それは「鶏」です。ではなぜ鶏なのでしょう？この質問をはにわ館に見学に来た子どもたちによると、「赤と白で縁起がいいから」とか、「卵を産んでくれるから」などなど、現代の価値観で答えを出してきます。子どもらしく一生懸命考えてくれるのでとてもうれしくなります。

しかし、古墳時代の「鶏」の存在は今とは全く異なるものでした。今回は再びF先生に登場していただき、昔の人々にとっての「鶏という存在」について教えてもらいましょう。

教えて！F先生  
太陽を呼ぶもの編



現在は文明が発達し、地球が自転していること、太陽の周りを公転していること、それにより夜が明けることは誰もが知っていますが、ポーランドの天文学者コペルニクスが「地動説」を唱えたのは16世紀ですから、それよりもはるか昔の5世紀の初めの時代では「いつ夜が明け、太陽が昇るのだろうか」という関心が非常に高かったのです。まして日本には四季があり、季節ごとに日の出の時間も異なるので「鶏が鳴く」ことで太陽が昇るのだという説が信じられていたのです。

今でこそ鶏は卵も含めて食用に飼育されていて、その存在意義は昔と全く違いますが、古墳時代は「太陽を呼び、魂の再生をもたらす鳥」として神聖化され、死者の魂を再生し、再びこの世に生まれ変わらせる神秘の鳥として崇められていました。

ちなみに、鶏がなぜ朝鳴くのか？という、鶏は縄張り意識が強く、「自分が一番ケンカが強いんだぞ」とアピールしているようで、朝鳴くのは雄鶏だけのようです。(2021年1月22日放送「チョコちゃんに叱られる!!」より) 朝一番に鳴くのは群れの中で最も強いボス鶏で、他の雄鶏に縄張りを主張するためであり、決して人間のために鳴くわけではありません。

【9月 長月】

夏休みも終わり、朝夕に秋の気配を感じる季節がやってきました。秋の夜長、お月見はいかがでしょう。今年の中秋の名月は、9月21日で満月になるそうです。ススキやお月見団子などをお供えし、月を愛でるひと時を過ごしてみましょう。



はにわ館では、第1展示室の「宝塚古墳の謎」について、動画による中学生ボランティアガイドを行っています。8月6日に市内3校の4人が、古代服と勾玉の首飾りを身に付けて撮影にのぞみ、緊張しながらも丁寧でわかりやすい展示の解説を収録しました。来館された方が、お手持ちのスマートフォン等で掲示してある二次元コードを読み取っていただくと、収録された中学生のガイドを視聴できます。公開期間は、9月23日までです。ご来館いただき、お試しください。



(動画撮影風景)

ギャラリーでは、松阪市美術展覧会の第1部が開催されます。感染対策を十分に守り、芸術の秋を楽しみに文化財センターにお越しください。(所長)

**文化財センター はにわ館&ギャラリー催し物予定**

【はにわ館】入館料110円(18歳以下無料) 開館時間は9:00~17:00です ※入館は16:30まで

第一展示室 ■常設展 「宝塚古墳の謎」

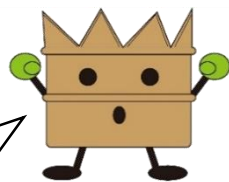
【ギャラリー】入場無料

第1~3ギャラリー ■第62回 松阪市美術展覧会 第1部(絵画、彫刻・工芸)  
9/26(日)~10/3(日)9時~17時まで ※最終日は15時まで  
◀ギャラリーの開催予定は8月26日(木)時点であり、今後変更することがあります▶

— 8月28日(土)~9月12日(日) ※緊急事態宣言発令のため、臨時休館いたします。 —  
<9月の休館日は13日(月) 21日(火) 24日(金)> 文化財センター情報はこちら

【発行】松阪市文化財センター 【☎】0598-26-7330  
【HP】<https://www.city.matsusaka.mie.jp/site/bunkazai-center/>

今回は「器材埴輪」の中  
でもなじみのない「鞍」  
についてのお話。



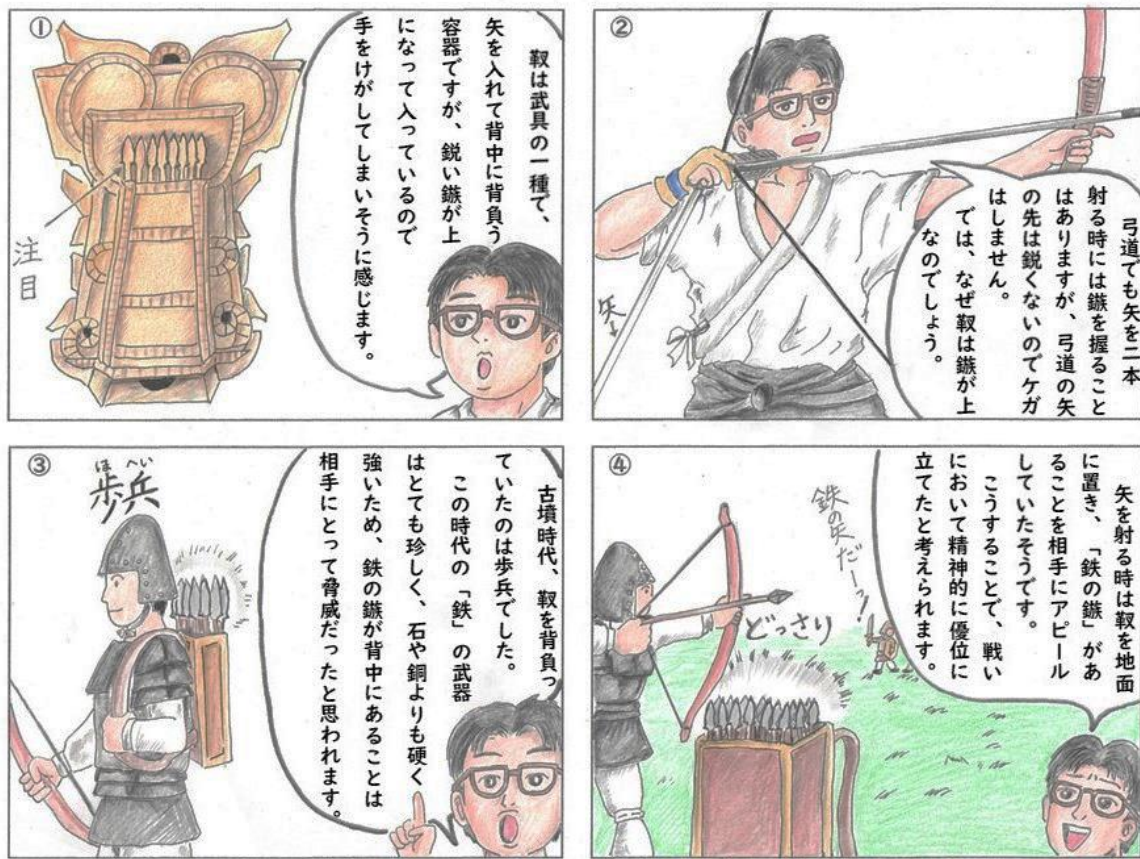
【鞍の向きの理由】

「鞍」という埴輪を知っていますか？はにわ館の常設展にはその一部だけが展示されていますが、古墳時代の武器、弓矢の矢を入れる容器でした。

矢を入れる容器として考えた時、鋭い鍔が上向きに入っているのでもちよっと使いづらいのに危ないと思いませんか？鍔は下を向けて容器に入れるのが一般的な弓矢のイメージです。

なぜ鍔が上になっているのでしょうか。昔弓道をやっていたという文化財センター職員 Nさんのこぼれ話を聞いてみましょう。

Nさんのこぼれ話



日本に鉄が伝来したのは弥生時代と言われていますが、この頃に製鉄の技術はなく、朝鮮半島から輸入したり、鉄の原料を加工することしかできませんでした。

宝塚古墳の王がまだ健在の頃は、鉄製の武器は非常に珍しく貴重なものだったと言えます。

古墳時代における鉄は「強さ」の象徴であり、鉄の鍔を見せることで戦う相手よりも精神的優位に立てると共に、自分たちには強力な武器があるという自信になっていたようです。

また、古墳に鞍形埴輪が納められた背景に、国を統治していた王が亡くなると王の古墳が国を守る今という「神」のような存在になるのだと信じられていたようです。

当時日本では仏教やキリスト教などの宗教は存在せず、自分たちの地を守る神々は祖先であったり、国を治めていた王の魂だと人々は信じていたようです。その神が強くて高く誇り高い存在であってほしいという願いが、鞍形埴輪には込められているのかもしれない。

一見、使い勝手が悪く、手をケガしてしまいそうな鞍の鍔の向きには「強さ」を示すという効果が



はにわ館常設展に展示してある鞍形埴輪の一部

あり、戦いにおいて非常に有効な手段だったと言えます。

現代の視点や感覚で「おかしいな、変だな。」と疑問を感じるようなことも、当時の時代背景を踏まえて見直すと、「なるほど！」と思える答えが見つかることがあります。

今でも屈強で常人離れした人を「鉄人」と称することがありますが、この時代の名残なのかもしれませんね。(担当)

【10月 神無月】

秋も深まり朝夕に気温の変化を感じる頃となりました。例年なら収穫を感謝して秋祭りが各地で行われる時期ですが、今年は、感染拡大を防止するために多くの行事が中止となっています。

文化財センターも緊急事態措置に伴って8月28日から1ヶ月を超える臨時休館となりました。また、毎年お楽しみいただいている「灯りコンサート」も中止させていただきます。しかし、休館中に関係者のみで準備をすすめ「松阪市美術展覧会」が10月1日からギャラリーで開催されます。第一部は1日から3日までですが、第二部は、17日から24日まで開催予定です。やっと、ご来館いただき芸術の秋を楽しんでいただけます。

はにわ館第一展示室では、中学生ボランティアガイドの「動画でガイド」も休館中に配信期限が過ぎてしまいましたが、新たにQRコードを設置し、見学時に中学生の音声ガイドが利用いただけるようにしました。また、第二展示室では、10月23日より令和3年度はにわ館特別展『愛されつづける萬古焼』を開催します。特別展では、松阪ゆかりの文化財を紹介していますが、今年は射和萬古の焼物です。江戸時代後期に竹川竹斎が開窯した射和萬古の市指定文化財の作品等を展示するとともに、射和萬古のルーツである古萬古や有節萬古などを紹介します。また、松阪発祥の時中焼や松阪萬古、県内の四日市萬古や桑名萬古などの数々の作品をお楽しみいただき、「萬古不易」というように、いつまでも愛されつづける萬古焼の魅力に触れていただく機会になれば幸いです。



市指定有形文化財 竹斎手造茶碗 (個人蔵)

感染防止対策をして、文化財センターにお越しください。(所長)

文化財センター はにわ館&ギャラリー催し物予定

【はにわ館】入館料110円 特別展開催中は200円(18歳以下無料)  
開館時間は9:00~17:00です ※入館は16:30まで

第一展示室 ■常設展 「宝塚古墳の謎」  
第二展示室 ■はにわ館特別展「愛されつづける萬古焼」10/23(土)~11/23(火・祝)  
■ミュージアムトーク 10/23(土) 13時半~14時半

【ギャラリー】入場無料

第1~3ギャラリー ■第62回 松阪市美術展覧会 第一部(絵画、彫刻・工芸)  
10/1(金)~10/3(日)9時~17時まで ※最終日は15時まで  
第二部(写真、書道)  
10/17(日)~10/24(日)9時~17時まで ※最終日は15時まで  
第3ギャラリー ■第8回 嬉野フォトクラブ写真展  
10/27(水)~10/31(日)9時~17時まで ※初日は13時から、最終日は16時まで  
第1ギャラリー ■森川久写真展 仁王(武)  
10/29(金)~11/3(木) 9時~17時まで ※最終日は16時まで  
第2ギャラリー ■華道家元 池坊 松阪支部展  
10/30(土)~10/31(日)10時~17時まで ※最終日は15時半まで

<10月の休館日は 4日(月) 11日(月) 25日(月)>

※感染状況により内容に変更が生じる場合もあります。

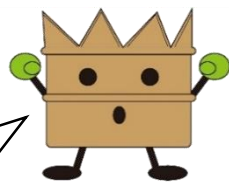
【発行】松阪市文化財センター【☎】0598-26-7330

【HP】https://www.city.matsusaka.mie.jp/site/bunkazai-center/

文化財センター情報はこちら



「勤労感謝の日」にちなんで文化財に関わるお仕事について紹介します。



## 【調査員の仕事】

11月23日(火)は勤労感謝の日です。働いている人に感謝する日ですが、皆さんは埋蔵文化財(古墳や遺跡、埴輪など)発掘調査等に関わる調査員の仕事についてご存じでしょうか。

今回は文化財センター職員Tさんの活動日記を通して、調査員の仕事を紹介します。

## 丁さんの活動日記

① 調査員をしています。文化財センター職員 Tさん

② 色んな仕事がありますが例えば建物を建てる所に遺跡がないかを確認したり

③ 発掘調査の報告書を作ったりしています。

④ 大変なことは、表面からは見えない所を資料を元に調査をするので、とても暑いです。暑い日に、日かげも無い中、一日外で作業することもあります。

⑤ うまくいかなくて落ち込むこともあるけれど...

⑥ 僕はこの仕事を選んでよかったと思っています。

Tさんが埋蔵文化財に関わる仕事を志したのは、子どもの頃に古墳が好きになるきっかけがあったからだそうです。現在は仕事をしながら更なるキャリアアップを目指して勉強中です。発掘調査は土の中に眠る歴史の痕跡(遺跡や古墳など)から昔の人々の暮らしを知るための大切な

仕事であり、それらを壊さないよう慎重かつ丁寧に掘り進めなくてはならない大変さがあります。一方で、新しい何かが埋まっているかもという「宝探し」のようなワクワク感もあるそうです。現在見つかった埋蔵文化財は調査員によって丁寧に発掘され守られてきた財産です。私たちが昔のことを知ることができるのも、こういった熱意ある人たちのおかげですね。

(担当)

## 【11月 霜月】

秋も深まり木々が色づき始めた鈴の森公園ですが、立冬には木枯らしが吹き木の葉を舞い上がらせて、冬を迎えます。はにわ館では特別展も始まり、市民ギャラリーでは様々な芸術文化の展覧会が予定されており、多くの方がご来館いただけることと思います。

はにわ館特別展「愛されつづける萬古焼」では、江戸時代後期から始まった三重県の代表的な工芸品の魅力を紹介しています。そのデザインには、獅子や龍などの霊獣や鳥・亀・狸・象や虎などが取り入れられた作品があります。萬古焼の歴史をたどりつつ、生き物の表現も楽しんで、観てください。はにわ館は、空調工事に伴い11月30日から令和4年3月31日まで休館させていただきます。この展覧会が今年度最後の企画展となりますので、是非ご覧ください。



いろまうずらかたどびん  
色絵鶉形土瓶(四日市萬古)  
三重県総合博物館蔵

(所長)

## 文化財センター はにわ館&ギャラリー催し物予定

【はにわ館】入館料200円(特別展開催中 18歳以下無料)  
開館時間は9:00~17:00です ※入館は16:30まで

第一展示室 ■常設展 「宝塚古墳の謎」  
第二展示室 ■はにわ館特別展「愛されつづける萬古焼」10/23(土)~11/23(火・祝)

### 【ギャラリー】入場無料

- 第1ギャラリー ■嬉野文化協会 陶嬉の会展  
11月7日(日)~11月14日(日)午前9時半~午後5時 ※最終日は午後3時まで
- 第3ギャラリー ■嬉野文化協会 芳墨会展  
11月9日(火)~11月14日(日)午前9時~午後4時半  
※初日は午後1時から、最終日は午後3時まで
- 第2ギャラリー ■松阪グループ「いずみ」日本画展  
11月12日(金)~11月14日(日)午前9時~午後4時半 ※最終日は午後4時まで
- 第3ギャラリー ■ニッコールクラブ松阪支部 第26回支部展  
11月17日(水)~11月21日(日)午前10時~午後5時 ※最終日は午後3時まで
- 第3ギャラリー ■松阪しよんがい音頭と踊り50年のあゆみ展  
11月19日(金)~11月21日(日)午前9時~午後5時 ※最終日は午後3時まで
- 第2ギャラリー ■フォトサークル写真人 作品展  
11月19日(金)~11月21日(日)午前10時~午後5時 ※最終日は午後4時まで
- 第1~3ギャラリー ■景観絵画展 ~わたしの好きな松阪の風景~  
11月27日(土)~11月28日(日)午前9時~午後4時 ※最終日は午後3時まで

### 【イベント】

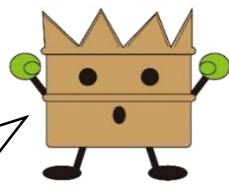
- ワークショップ ミニ陶芸であそぼう【第3ギャラリー】 参加費300円/個 定員/各回5名 ※受付終了  
11月7日(日)10:00~15:00 (①10:00~②11:00~③13:00~④14:00~)
  - 講演会「萬古焼の系譜-射和萬古と有節萬古-」【松阪図書館2F 講座室】定員30名 参加無料 ※受付終了  
11月14日(日)13:30~15:00 ※受付は13:00~
  - ポイントラリー 11月6日(土)・11月7日(日)9:30~16:00 【文化財センター内】
- <11月の休館日は1日(月)4日(木)8日(月)15日(月)22日(月)24日(水)29日(月)です>  
施設の空調工事のため、各施設を次のとおり休館します。はにわ館11/30(火)~3/31(木)まで  
※感染状況により内容に変更が生じる場合もあります。

【発行】松阪市文化財センター 【☎】0598-26-7330 文化財センター情報はこちら  
【HP】<https://www.city.matsusaka.mie.jp/site/bunkazai-center/>





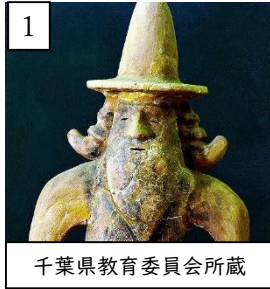
各地方にはいろんな人物埴輪がありますよ。今号は面白い埴輪の紹介です。



## 【各地方の人物埴輪】

12月といえばイベントが盛りだくさんですが、一番のイベントといえばやはりクリスマスではないでしょうか。そしてクリスマスと言えば、サンタクロースですね。

実は、千葉県芝山古墳群（殿塚・姫塚）では写真のような埴輪が出土しています。



1 どうでしょう？なんだかサンタクロースのような容姿ですね。この埴輪が作られたのは6世紀ごろだと言われていて、シルクハットのような帽子をかぶり、顔の横に垂れ下がった髪が、首の横で折り返され、束ねられていますね。このような髪形を美豆良といいます。この髪形は古墳時代の男性特有の髪形です。

一説には渡来人という説もありますが、定かではありません。ただ、愛嬌のある表情とあごひげを蓄えた姿は印象深いものを感じさせます。



2 次の写真の埴輪も同じようにあごひげを蓄えた男性の埴輪ですが髪形が違います。京都国立博物館にあるこの埴輪は、鼻が高く目と口が穴を開けて表現されており腰には大刀を携えています。

出土先は不明とされていますがおそらく、関東地方で6世紀ごろ作られたものだとされています。



3 では、こちらの埴輪はどうでしょう？群馬県太田市四ツ塚古墳で出土した埴輪で、「盛装の男子」と呼ばれている埴輪です。

この埴輪も6世紀ごろ作られた埴輪ですが、最初の埴輪と比べるとかっこいい雰囲気がある埴輪です。

両腕には籠手を巻いていて、腰には大刀をさしています。美豆良の髪形ですが最初の埴輪とは違い前方の方に髪を折り返しており、動物の牙のような形になっています。



4 松阪にも美豆良の髪形の埴輪があります。常光坊谷4号墳から出土した「馬を引く人」の埴輪です。この埴輪も男性の埴輪ですが、馬形埴輪と共に出土しており、右手を挙げ、馬の手綱を引いている様子を表したものであると言われています。

少しわかりにくいですが、目の下あたりに線で模様が描かれていて、これは刺青を表していると考えられています。



5 同じく、馬を引く人の埴輪ではないかと言われているのが、埼玉県熊谷市野原古墳から出土したこの埴輪です。通称「踊る埴輪」とも称されていて、左手を挙げ、右手を体に巻き付けるように曲げているので、その容姿が踊っているように見えます。

頭髪が表現されていないので、男女どちらかは不明なのですが、その表情がとても豊かなので、東京国立博物館でも有名な埴輪の一つとなっています。

(2, 3, 5の写真 出典: ColBase <https://colbase.nich.go.jp>)

古墳時代に作られた埴輪でも各地方によって様子が違い、容姿もバラエティに富んでいます。現代のように美容室や床屋どころか、ハサミすら無く散髪ができなかったであろう時代、伸びた髪を束ねたり、帽子をかぶったり、あごひげを蓄えるなど、オシャレに気を使っていた様子が埴輪からも知ることができます。

時が流れ、現代は国際交流の中で、クリスマスやハロウィンなど、異文化の行事が日本にも入ってきていますが、古墳時代にも各地方によって特色ある風土があり、それぞれの地方文化を創っていたと思われます。全国各地の人物埴輪には、まだまだ面白いものがたくさんありますので、調べてみると楽しいかもしれませんね。 (担当)

## 【12月 師走】

今年も最後の月となり、一年を締めくくり、大掃除や新年を迎える準備をするなど、師走というように慌ただしい時期がやってきました。

はにわ館は、11月30日から3月31日まで空調設備改修工事のため長期の休館に入りました。平成15(2003)年に開館したはにわ館は、20年近い時を経て、空調設備の故障や不具合が近年続いておりました。今後も大切な文化財を保護し、ご来館の皆様にご覧いただくため、全館の空調工事をさせていただきます。ご迷惑をおかけしますがご理解ください。

12月のギャラリーは、松阪工業高等学校繊維デザイン科の卒業制作展が開催されます。高校生の若い感性や表現力溢れる作品を是非ご覧ください。

ギャラリーもこの催しが今年度最後の展覧会となり、ギャラリー倉庫も改修工事に入ります。ギャラリーは、12月17日から4月10日まで休館させていただきます。

展示は見ていただくことができませんが、ギャラリー抽選会や申し込み・問い合わせなどセンター業務は平常通り行いますので、ご用の方は事務所の窓口にお越しください。

センターの休館は、毎週月曜日と年末年始休業日とさせていただきます。よいお年をお迎えください。 (所長)



## みなさんよいお年を！

### 文化財センター はにわ館&ギャラリー催し物予定

【はにわ館】

空調工事の為、3/31(木)まで休館

【ギャラリー】

第28回 三重県立松阪工業高等学校繊維デザイン科卒業制作展 12/9(木)~16(木)  
9:00~17:00 (最終日は12:00まで)

空調工事の為、12/17(金)~令和4年 4/10(日)まで休館

【文化財センター業務】8:30~17:00まで

通常通り業務を行います。

休館日 6日(月) 13日(月) 20日(月) 27日(月) 29日(水)~31日(金)  
1月1日(土)~3日(月)

【発行】松阪市文化財センター 【☎】0598-26-7330

文化財センター情報はこちら

【HP】<https://www.city.matsusaka.mie.jp/site/bunkazai-center/>



あけましておめでとうございます。  
本年もよろしくお願  
いします。



## 【ヤマト王権とは?】

1,600年前、宝塚1号墳の王はヤマト王権(大和朝廷)に認められ、前方後円墳を造ることができたとされていますが、ヤマト王権とはどういうものだったのでしょうか。今回は今の天皇家の成り立ちにも関係するか、というお話です。

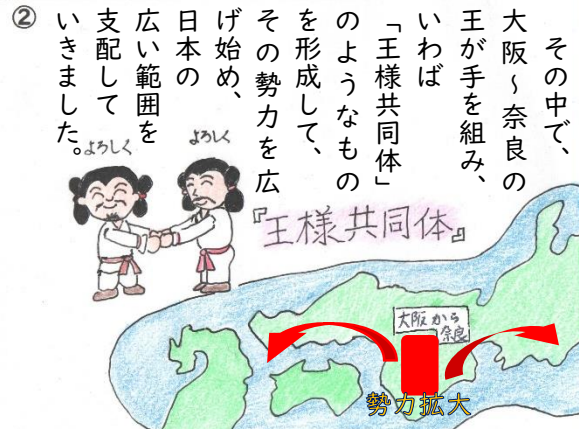
## ヤマト王権の始まり

① 村 → 国



弥生時代に米作りが始まり、人々は一つの場所に定住できるようになりました。その中から、次第に国をまとめるほどの権力者(豪族や王)が現れてきます。

②



その中で、大阪・奈良の王が手を組み、いわば「王様共同体」のようなものを形成して、その勢力を広げ始め、日本の広い範囲を支配していききました。

『王様共同体』

大阪から奈良

勢力拡大

③

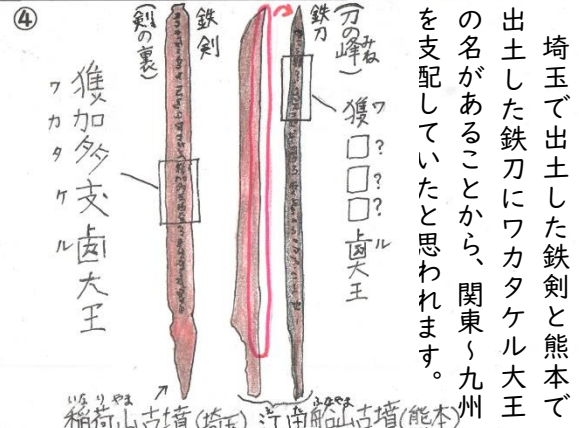


King of Kings  
ワカタケル大王 (雄略天皇)

その共同体が「ヤマト王権」であり、特に力があつた大王一族が後の天皇家です。実在した王の中に「ワカタケル大王」(雄略天皇)がいます。

中国の「宋書」には「倭の五王」として登場しています。

④



鉄剣

鉄刀

倭加多支歯大王

ワカタケル大王

稲荷山古墳(埼玉)

江由館山古墳(熊本)

埼玉で出土した鉄剣と熊本で出土した鉄刀にワカタケル大王の名があることから、関東・九州を支配していたと思われる。

このようにして成立し、日本の広い範囲を支配下においたのがヤマト王権でした。その王様共同体を束ねていたのが「大王」であり、この後ずっと今上天皇(現在の天皇)まで「世襲」(血縁関係による継承)が続いたということになります。とても長い歴史ですね。

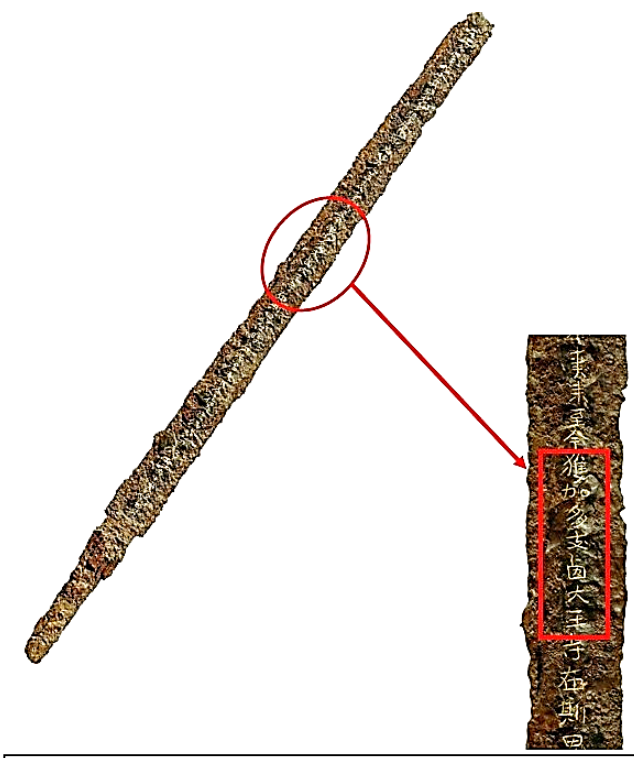
そのヤマト王権の王たちが墓に選んでいた形状が「前方後円墳」でした。古墳の中でも最も格付けが高く、松阪市の宝塚1号墳も前方後円墳であり、三重県内では4番目に大きな古墳です。(なお、1~3番は奈良県に近い伊賀地方にあります。)

ヤマト王権から比較的離れた伊勢の地に、限られた人にしか造れない前方後円墳を造ることを許されていたことから、伊勢地方の統治を任されていた王ではないかと思われま。古墳の形状や大きさからも絶大な権力を持っていたということがわかります。

さて、上の漫画の中に「倭の五王」という記述が中国の「宋書」に登場すると書きましたが、倭の五王は5世紀から約100年の間に実在した大王のことで、「讚・珍・済・興・武」の漢字で表されています。では、「ワカタケル大王」(雄略天皇)はこの5つの中でどの漢字の王だったのでしょうか。

答えは来月号にて発表しますので、興味がある人は調べておいてくださいね。(担当)

## (剣の裏の銘文)



剣の裏に「ワカタケル大王」の名前があります。



其の銘に美授余其兒名乎獲居世為乃人首奉事未至今獲加多支歯大王寺在斯鬼宮時吾天治天下令作此百練利刀記云奉事未至今獲加多支歯大王寺

※参考 稲荷山古墳(埼玉)で見つかった鉄剣の写真(文化庁所蔵、埼玉県立さきたま史跡の博物館保管)

## 【1月 睦月】

新年あけましておめでとうございます。旧年中は多くの皆様にご来館いただきありがとうございました。本年もよろしくお願いいたします。

本年の干支は、壬寅(みずのえとら)です。冬が厳しいほど春の息吹は生命力に溢れ、活気に満ちた年になると言われているようです。襖絵や掛け軸にも描かれることの多い寅は、決断力や才知に長け、縁起物とされています。この新しい年が、寅年に相応しく、良き一年になりますことを願っております。

はにわ館とギャラリーは、昨年末から空調設備等改修工事のため休館しております。はにわ館は11月中旬に資料や荷物の移動を終え、12月中旬に機械室から古い空調機器が取り外されました。現在、新たな機器を入れるための工事や天井を開けての配管工事が、順調に進められています。工事が終わり、4月に開館するまでしばらくお待ちください。

事務所は、4日より平常業務を行っておりますので、ご用の方は、お越しく下さい。(所長)



## 文化財センター はにわ館&ギャラリー催し物予定

【はにわ館】  
空調工事の為、3/31(木)まで休館

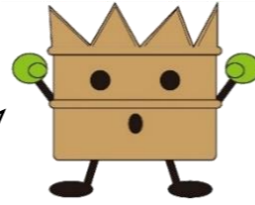
【ギャラリー】  
空調工事の為、4/10(日)まで休館

【イベント】  
休館日 1日(土)~3日(月) 11日(火) 17日(月) 24日(月) 31日(月)

【発行】松阪市文化財センター 【☎】0598-26-7330 文化財センター情報はこちら  
【HP】<https://www.city.matsusaka.mie.jp/site/bunkazai-center/>



古墳時代の英雄  
についてご紹介し  
ます。



## 【ヤマト王権の英雄】

先月号の問題の答え、ワカタケル大王は「武の王」でした。(武の王とされています。) そのワカタケル大王よりも前に登場する「英雄的な存在」をみなさんにご存じでしょうか。日本書紀だけでなく、本居宣長が解釈した「古事記」の中にも登場する古墳時代のスーパーヒーロー「日本武尊」(古事記では倭建命と表記)について紹介します。

## 英雄ヤマトタケル

① 日本武尊は、景行天皇の息子であり、古事記や日本書紀にも登場する伝説的な人物です。端正(たんせい)な容姿、勇敢で力も強く、その活躍は神話として記されています。



② 有名な逸話(いつわ)では、倭姫から授かった「天叢雲剣」(あまのむらぐも(こ)のこ)と火打石のお話があります。



③ ワナにはめられて四方を火で囲まれ、大ピンチにおちいった時、とっさに剣で草をなぎ払い、火打石で向かえ火を放ちピンチを脱しました。



④ 「三重県」の由来は、日本武尊が故郷に帰る際、疲れ切った足が「三重に曲がり固い餅のようだ」と嘆いたことから「三重」といわれるようになったそうです。



三重県亀山市にある「能褒野王塚古墳」は、宮内庁から「日本武尊の墓」として治定されています。日本武尊の伝説的な神話は日本各地で語り継がれており、墓(陵墓)だけでも国内で3つ治定されています。

倭姫からゆずり受けた「草薙の剣」は、その昔スサノオノミコトが、ヤマタノオロチを退治した際に体内から見つけた剣であり、朝廷(天皇家)に代々受け継がれてきた神器として熱田神宮に奉納されているそうです。

様々な逸話や活躍が日本書紀や古事記の中に記されていますが、日本武尊が実在した人物であったか、数々の逸話が本当にあったことかどうかわかではありません。おそらく、ヤマト王権が日本各地に

勢力を伸ばしていく中で、ヤマト王権の正当性を日本武尊の英雄的存在を通じて書物に残していったとも言われています。

漫画の中に出てきた「草薙の剣」や「白い鳥」伝説のほかにも、クマソタケル兄弟との闘いや、オトチバナヒメの人身御供、伊吹山の神との闘いなど、日本武尊が残した数々の伝説は現代人が読んでも色あせることのない輝きを放っています。また、ご紹介出来る機会があればお話しします。

ところで、日本の「三大神器」の一つは草薙の剣ですが、あとの二つは次のうちどれでしょうか。

【○伊弉諾盾 ○八咫瓊勾玉 ○夜濡須鏡 ○八咫鏡 ○海神鏡 ○天之御矢】

来月号で答えを紹介するので、興味のある人はぜひ調べておいてください。(担当)

## 【2月 如月】

寒い日が続いていますが、2月4日は春の始まりとされる立春です。その前日が節分となり、無病息災を祈って豆まきをする風習があります。「三重県まん延防止等重点措置」が実施され感染拡大が続いておりますが、一日も早く感染状況が落ち着き、健康で安全安心な生活が送れることを願って止みません。

文化財センターにはにわ館の工事は、世界的な感染拡大の影響で部品や機器の納品が心配されましたが、無事に届き、機械室内の大型空調機器の入替が行われました。

ギャラリー棟での工事も順調に進んでいます。工事に伴い、大型車両の出入りやコンクリート等掘削の際の騒音など、ご迷惑をおかけしておりますがご理解ください。

はにわ館やギャラリーは閉館中ですが、センター入口のロビー展示が新しくなり、「曲遺跡」を紹介しています。また、4日(金)から14日(月)の間「豪商のまち松阪」観光交流センターの2階にてミニ展示を行います。パネル展示となりますが、文化財センターの活動の様子や松阪市の文化財(考古資料)の一部を紹介させていただきます。是非お立ち寄りください。25日(金)・26日(土)には、橋西地区市民センターを会場にワークショップ「勾玉」&「松阪市の文化財紹介」も行います。

4月の再開までしばらくありますが、開館準備も進めていきますのでお待ちください。(所長)



←よろしければアンケートにもご協力ください。  
感想等をお聞かせいただければ、今後の参考とさせていただきます。

## 文化財センター はにわ館&ギャラリー催し物予定

### 【はにわ館】

空調工事の為、3/31(木)まで休館

### 【ギャラリー】

空調工事の為、4/10(日)まで休館

### 【イベント】

休館日 7日(月) 14日(月) 21日(月) 24日(木) 28日(月)

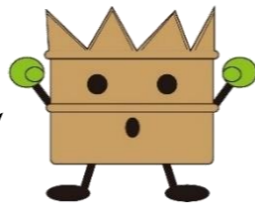
【発行】松阪市文化財センター 【☎】0598-26-7330

文化財センター情報はこちら

【HP】<https://www.city.matsusaka.mie.jp/site/bunkazai-center/>



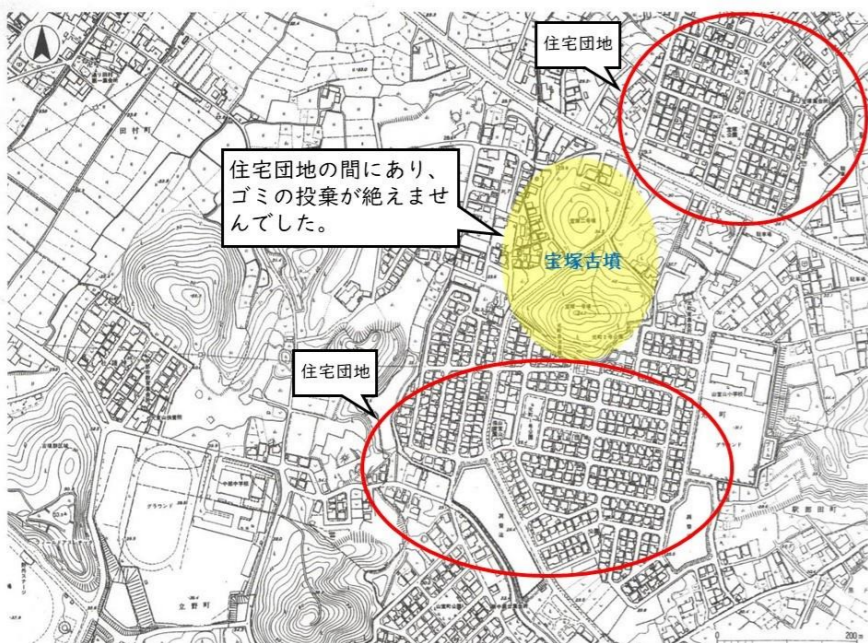
今年度最終号は  
やっぱり船形埴輪  
です。



## 【リマインド・世紀の大発見】

先月号の問題の答え、残りの三大神器は八尺瓊勾玉と八咫鏡の2つでした。さて、今年度も最終月となりました。はにわ通信の2021年度最終号はやはり「船形埴輪」で締めくりたいと思います。

そこで、船形埴輪がどうやって発見されたかを漫画にしてみました。ご覧ください。

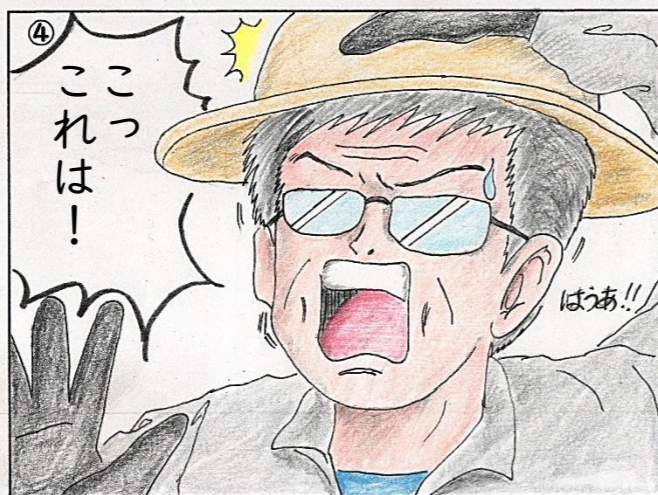


宝塚古墳は住宅団地と住宅団地に挟まれた位置にあり、以前はうっそうとした松林と竹林が広がり、ゴミの投棄が絶えませんでした。

松阪市は平成10(1998)年8月～文化庁や三重県教育委員会と協議し、古墳を整備して公園を作ろうという方針になりました。

宝塚古墳の調査は翌年平成11(1999)年2月から始まり、11ヶ月後の平成12(2000)年1月に古墳の形状が判明しました。

その2ヶ月前のこと…



出土したばかりの船形埴輪

現れたのは船の形をした埴輪でした。葦石と土砂に混っていたものの、その外形は明らかに人の手で作られたもので、置かれていたのが祈りをする造り出しの谷間にあたる場所だったためほとんど破損することなく、各部材が土砂で流されず原型を保って出土したのです。

国内でもこれほど大きな船形埴輪は例が少なく、装飾においても他に類を見ない豪華な埴輪でした。誰も予想しなかったこの出土品は「世紀の大発見」として注目を集め、その後「文化財センターはにわ館」ができるきっかけになりました。

発見された当時は海外にも伝えられるほどのニュースにもなり、はにわ館にも連日たくさんの方が訪れました。しかし22年後の今は、地域の学校の遠足や社会見学、生涯学習の一環として来館し、見学する人が大部分になりました。

そんな船形埴輪。現在は、はにわ館休館中で見学できませんが、来月には再び見学できるようになります。その際には初めての人も一度見学した人も改めて船形埴輪に会いに来てください。

皆様のご来館をお待ちしております。

(担当)

## 【3月 弥生】

鈴の森公園の梅の花がほころび、日差しや風に春の息吹を感じるこの頃です。3月には、ひな祭りや初午大祭があり、春の訪れを喜び、無病息災を願う厄払いの行事です。そして感染拡大により今は不自由な生活を過ごしている子どもたちが、卒業を迎える時期となります。新たなスタートとともに、希望に満ちた心安らぐ春が来ることを願っています。

文化財センターでは、空調等改修工事のため12月から休館しております。まん延防止等重点措置期間が延長になり、2月末に予定していたワークショップも中止となりました。工事もこの1ヶ月で大詰めとなり、終わり次第、開館準備を行う予定をしています。

はにわ館は4月1日(金)から、ギャラリーは4月12日(火)から再開させていただきます。もうしばらくお待ちください。

(所長)



←よろしければアンケートにもご協力ください。  
感想等をお聞かせいただければ、今後の参考とさせていただきます。

リマインド・世紀の大発見

## 文化財センター はにわ館&ギャラリー催し物予定

### 【はにわ館】

空調工事の為、3/31(木)まで休館

### 【ギャラリー】

空調工事の為、4/10(日)まで休館 ※4/11(月)が休館のためオープンは12日(火)から

### 【イベント】

休館日 7日(月) 14日(月) 22日(火) 28日(月)

【発行】松阪市文化財センター 【☎】0598-26-7330

文化財センター情報は [こちら](#)

【HP】 <https://www.city.matsusaka.mie.jp/site/bunkazai-center/>



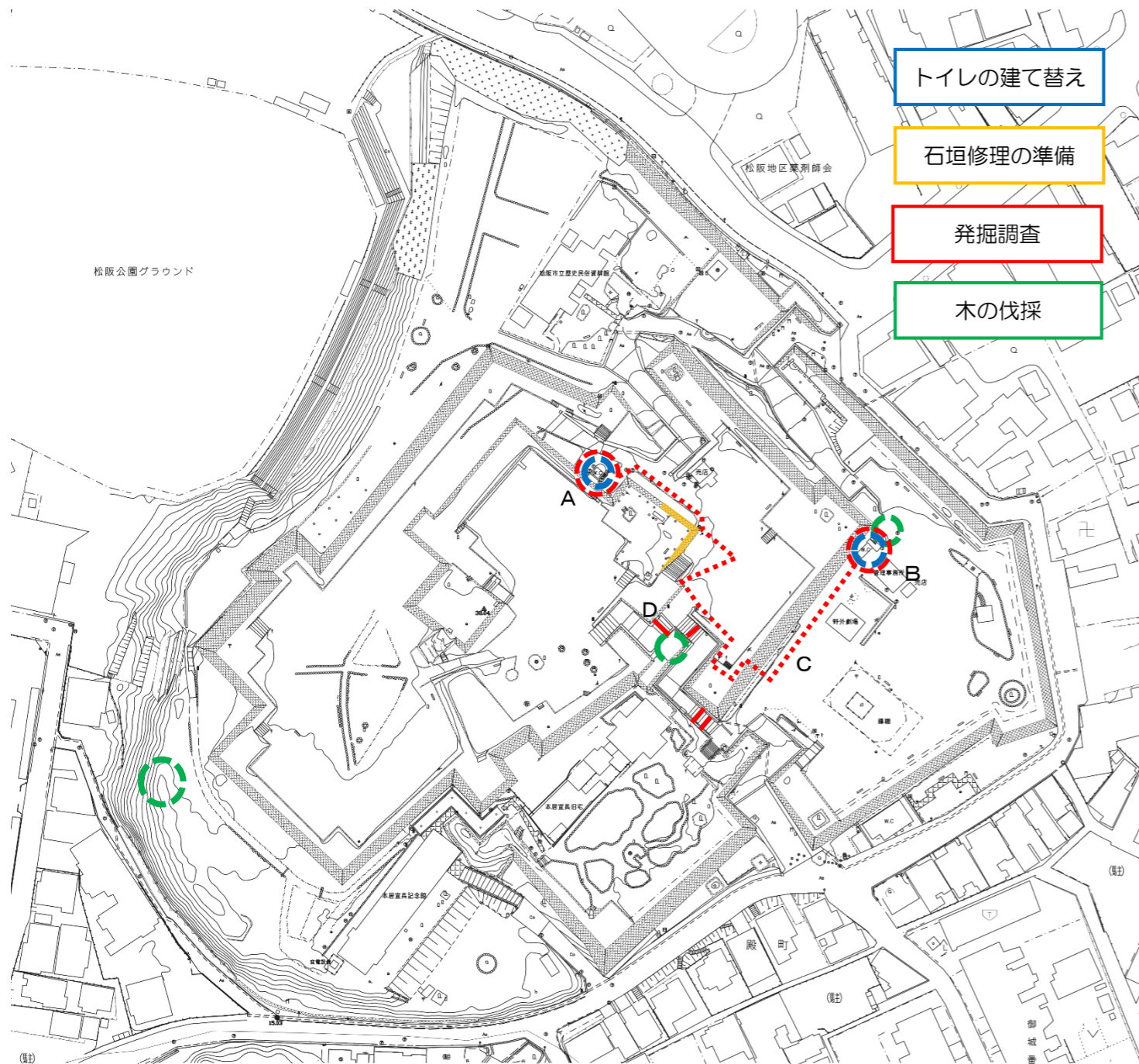
# はにわ通信

令和4(2022)年3月号別冊 松坂城跡特集



## 【令和3年度の松坂城跡に関する取組】

松坂市殿町にある松坂城跡は、日本にあるたくさんの城跡の中でも特に大切な城跡であると認められ、平成23年2月7日に国の史跡に指定されました。市のシンボルとしても大切な役割を担っている松坂城跡を、次の世代へ守り伝えるために、また魅力あるお城になるよう様々な取組をしています。そこで今回は、令和3年度の取組の一部を、みなさんにご紹介します。



令和3年度の主な整備の場所

## ①トイレの建て替え

古いトイレを使いやすく、きれいするために建て替えています。3月下旬に完成予定です。



上段：本丸下段トイレ（A）、下段：二ノ丸トイレ（B）

## ②発掘調査

お城の中で工事をする時は、お城を保護するために事前に発掘調査をします。



建物の柱を支えていた石を発見（二ノ丸）（C）



石階段の時代や構造を調査（本丸下段）（D）

左の図にあるように、①や②以外にもたくさんの整備を行っています。例えば、石垣修理の設計図を作ったり、石垣や地下に残るお城の跡を傷つけてしまう木を伐採したり、取組は様々です。今回のはにわ通信で全てを紹介することはできませんが、市のホームページ等でも紹介していきますので、ぜひご覧ください。